



切らずに治す脳血管内治療

脳神経外科 岡田 博史

脳血管内治療とは、カテーテルとよばれる細い管を使用して、血管の中から病気にアプローチする治療方法です。具体的な方法として、一般的に足の付け根の動脈から、2mm前後の管（カテーテル）を挿入します。局所麻酔で行われることもあります。血管の中をさらに細かいカテーテルを通し、病気のある部位まで誘導し、様々な道具や薬剤を使用して治療します。1990年代以降、道具の改良に伴い急速に広がっている比較的新しい治療方法です。通常、脳外科的治療と比較し開頭手術が不要であるため、患者さんの負担が少ない低侵襲な治療方法と言えます。

対象とする疾患は、大きく分けて、血管を塞ぐ塞栓術と、狭くなった血管を拡げる血行再建術があります。具体的には、塞栓術の適応となる、脳動脈瘤や脳の血管奇形（硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形など）、血行再建術の適応となる頸動脈狭窄症、超急性期脳梗塞などがあります。

日本脳神経血管内治療学会では、脳神経血管内治療の進歩とその治療水準の向上をはかるために、認定専門医制度を導入しております。当医療センターには学会認定指導医1名、認定専門医2名が対応し、脳血管内治療に対して積極的に取り組んでおります。血管内治療についてのご相談は外来でも対応しておりますので、お声がけくだされば幸いです。

F	A	S	T
Face	Arm	Speech	Time
顔	腕	言葉	すぐ受診
うまく笑顔が作れますか？	腕を上げたままキープできますか？	短い文がいつも通りしゃべれますか？	症状に気づいたら、すぐに119番を！

40TH ANNIVERSARY

2020年（令和2年）4月

八王子医療センターは 開設40周年を迎えました

